

事務事業名		送水・配水施設及び市管理分給水装置維持管理事業				☐ 実施計画登載事業		☐ 合併建設計画登載事業			
政策体系	政策名	01 潤いに満ちた快適な都市環境の創造				事業期間		予算科目			
	施策名	02 良好な生活空間の創造						会計	款	項	目
	基本事業名	02 上水道・簡易水道の整備				☐ 単年度のみ		水道	01	01	02
所属	根拠法令	水道法				☒ 単年度繰返 (開始 昭和29 年度～)					
	部課名	水道事業所				☐ 期間限定複数年度					
	課長名	中井 吉隆				【計画期間】					
	係名	施設保安係				年度 ～ 年度					
	担当者	佐藤 悦夫	電話	0192-27-3111		※全体計画欄の総投入量を記入					
			内線	176							
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)							全体計画(※期間限定複数年度のみ)				
送水管、配水池、配水管その他浄水の配水に係る施設及び市管理分給水装置の維持管理を行う。 主な事業内容 ①配水池の維持管理 ②配給水管の漏水調査・漏水修理 ③漏水修理に伴う舗装復旧 ④給水装置における残留塩素測定 ⑤水道メーター不良による交換作業 事業費は、委託料、修繕費、動力費等である。							総投入量 (千円)	事業費	財源内訳	国庫支出金	
										都道府県支出金	
										地方債	
										その他	
										一般財源	
									事業費計 (A)		0
									正規職員従事人数		
									延べ業務時間		
									人件費計 (B)		0
									トータルコスト(A)+(B)		0

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標		⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)		
① 手段(主な活動)		名称		単位
前年度実績(前年度に行った主な活動)		ア		件
配水池の維持管理		イ		m
配水管、給水装置の漏水調査、漏水修理		ウ		
破損等事故による修理				
今年度計画(今年度に計画している主な活動)		⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)		
前年度に同じ		名称		単位
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等		カ		件
送水施設、配水施設、市管理分給水装置		キ		m
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		ク		
配水・給水機能が維持される。		⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)		
④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)		名称		単位
安全な水道水が安定して供給される。		サ		m ³ /日
		シ		回
		ス		

(2) 総事業費・指標等の推移			年度	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(目標)	27年度(目標)	28年度(目標)
			単位						
投入量	事業費	国庫支出金	千 円						
		都道府県支出金	千 円						
		地方債	千 円						
		その他	千 円						
		一般財源	千 円	62,874	54,024	59,364	54,000	54,000	54,000
		事業費計 (A)	千 円	62,874	54,024	59,364	54,000	54,000	54,000
	人件費	正規職員従事人数	人	5	5	5	5	5	5
		延べ業務時間	時 間	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700
		人件費計 (B)	千 円	6,800	6,800	6,800	6,800	6,800	6,800
		トータルコスト(A)+(B)	千 円	69,674	60,824	66,164	60,800	60,800	60,800
⑤活動指標	ア	件	101	40	21	200	200	200	
	イ	m	140,000	90,000	90,000	120,000	120,000	120,000	
	ウ								
⑥対象指標	カ	件	12,010	12,590	12,971	13,000	13,000	13,000	
	キ	m	257,800	258,609	258,801	259,500	260,000	260,500	
	ク								
⑦成果指標	サ	m ³ ／日	1,511	2,209	2,080	5	5	5	
	シ	回	1	0	0	0	0	0	
	ス								

事務事業ID	0310	事務事業名	送水・配水施設及び市管理分給水装置維持管理事業
--------	------	-------	-------------------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？
昭和29年4月、上水道供用開始による。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは前期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？
未給水区域の解消等の施設整備事業により送配水施設が、また、一般住宅の再建や共同住宅等の建設増に伴い、給水装置の設置が増加している。
漏水修理件数は震災直後と比べ減少したが、道路の高上げ等により漏水が発見しにくくなっており、無効水量が増加している。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？
水道使用者から、漏水事故の低減が求められている。

2 評価の部(SEE)＊原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由】 施設の適切な管理により、水道水の安定供給が図られ、その結果、快適な都市環境の維持、向上につながる。
	② 公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由】 水道事業は地方公営企業であり、施設や水道管の維持管理は設置者である市が行う必要がある。
	③ 対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 適切である ⇒【理由】 維持管理事業であり対象、意図は適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地	☒ 向上余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】 職員による施設や配給水管路の巡回強化により、一層の漏水防止が可能である。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 ⇒【その内容】 安全で安定した水道水の供給ができなくなる。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 現状では他の手段は考えられない ☒ 他に手段がない ⇒【理由】
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 配給水管の郎雨水調査、漏水修理に係る費用であり、費用の削減は困難である。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 現状ではこれ以上の人件費の削減は難しい。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 水道施設の維持管理を行うことにより、安全な水が安定して供給でき、使用者が使用量に応じ水道料金で負担していることから適正である。

事務事業ID	0310	事務事業名	送水・配水施設及び市管理分給水装置維持管理事業
--------	------	-------	-------------------------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること) ① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり		(2) 全体総括(振り返り、反省点) 漏水調査・修理を行うことにより、安定した水道水を供給することができた。今後も巡回を強化し、水道水の安定供給に努める。																					
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☐ 現状維持 事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 施設や配給水管の巡回強化により、一層の漏水防止を図り、安全で安定した水道水の供給を維持していく。		(4) 改革・改善による期待成果 左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		●		維持			×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上		●																				
	維持			×																			
	低下		×	×																			
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 既存施設の老朽化が進行していくことから、施設や配給水管の事故防止のため、計画的で効率的な整備、更新が必要である。																							

(職 名) ※原則として施策の主管課長		(氏 名)
2次評価者	水道事業所長	中井 吉隆

4 事務事業の2次評価結果

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 ① 記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択) ☐ 記述不足でわかりにくい ☐ 一部記述不足のところがある ☒ 記述は十分なされている ② 評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択) ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されていない) ☐ 一部に客観性を欠いたところがある ☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)		(3) 評価結果の根拠と理由 早期の漏水発見を目的とした一層の巡回強化が必要である。																					
(2) 2次評価者としての評価結果 ① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり		(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☐ 現状維持 事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 漏水を削減し水道水の安定供給を図るため、計画的で効率的な整備・更新が必要である。																					
		(5) 改革・改善による期待成果 左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		●		維持			×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上		●																				
	維持			×																			
	低下		×	×																			

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項
